

# 第 2 四半期決算説明資料 ( 2 0 1 3 年度 )

2 0 1 3 年 1 2 月 6 日



# 2013年度 第2四半期 決算概要

## 2013年度 第2四半期累計期間の総括

- 当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融政策等の効果もあり景気回復に明るい兆しが現れてきておりますが、新興国経済の減速懸念や円安による物価上昇懸念等もあり、景気の先行きは、依然として不透明な状況で推移しました。
- このような事業環境の中、原子力発電所向け呼吸用保護具の受注が伸び悩んだことに加え、民間製造業の受注も年度後半にずれ込んでいることから、呼吸用保護具全般の受注は、前第2四半期累計期間比でほぼ横ばいの水準で推移しました。この結果、売上高は、前第2四半期累計期間比で微減の38億47百万円となりました。
- 一方、利益面では、材料費・製造経費は、前第2四半期累計期間を下回りましたが、年度後半以降に向けた製品供給体制の強化等に伴う労務費増もあり、製品原価率は前第2四半期累計期間比で約3ポイントの悪化となり、売上総利益は前第2四半期累計期間比12.1%減の11億26百万円となりました。
- また、販売費及び一般管理費については、期初から新製品の開発・拡販活動を積極的に推進した結果、人件費・諸経費の増加等が避けられず、前第2四半期累計期間比で4.4%増の13億7百万円となりました。
- 以上の結果、営業損失は1億81百万円（前第2四半期累計期間は営業利益28百万円）、経常損失は1億91百万円（前第2四半期累計期間は経常利益18百万円）、四半期純損失は1億36百万円（前第2四半期累計期間は四半期純利益10百万円）となりました。

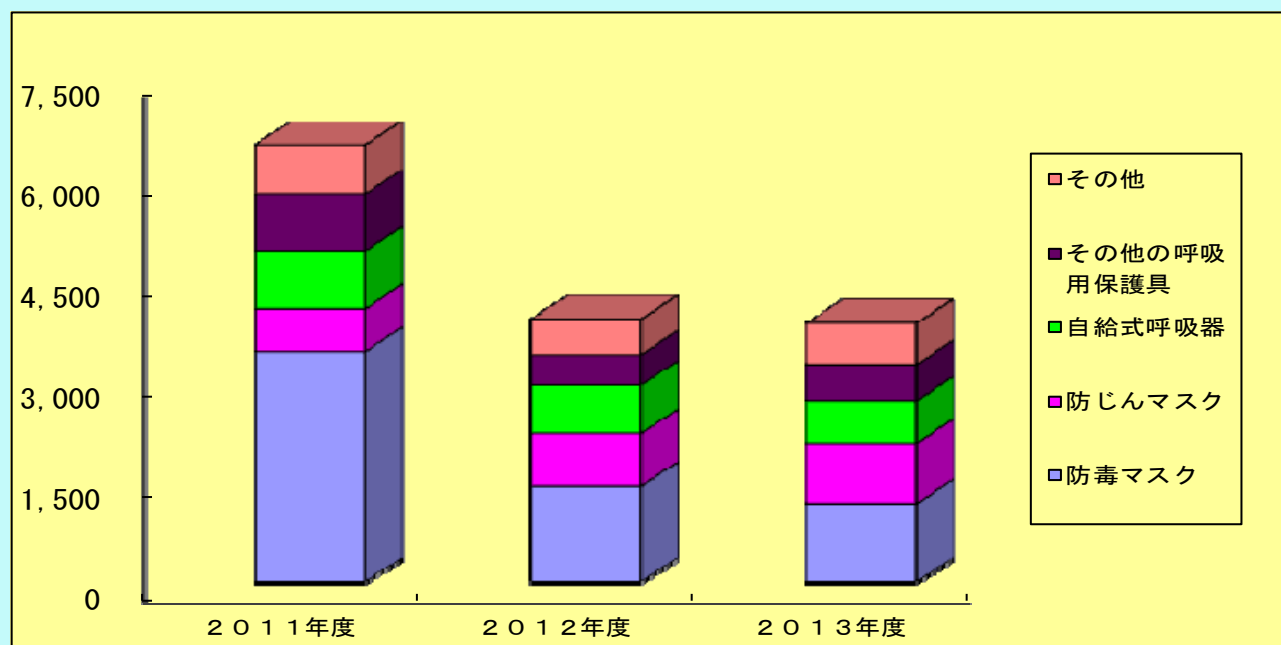
## 2013年度第2四半期累計期間 損益の状況

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	12年度第2四半期	13年度第2四半期	前年同期間比増減	備 考
売 上 高	3,905.6	3,847.5	△ 58.2	原子力発電所向け製品の受注伸び悩みに加え、民間製造業の受注ずれ込み等もあり、売上高は、前年同期間比で58百万円の減少となりました。
製品製造原価	1,820.2	1,882.7	62.5	前年同期間との比較で、製造部門は労務費増により製品製造原価が62百万円、また、仕入増等により商品原価が34百万円それぞれ増加した結果、売上高に対する売上総利益率は3.5ポイント悪化しました。
商品原価	805.3	839.0	33.7	
売上原価	2,625.5	2,721.7	96.2	
売上総利益	1,280.1	1,125.8	△ 154.4	
販売費及び一般管理費	1,252.6	1,307.2	54.6	販売費及び一般管理費は、新製品の開発・拡販活動等に注力したことから、前年同期間比では増加しています。
営業利益	27.5	△ 181.5	△ 209.0	前年同期間比では、主として受取配当金の減少、借入金利の圧縮等により、営業外収益、営業外費用ともに減少しました。
営業外収益	30.4	26.5	△ 3.9	
営業外損失	40.4	35.8	△ 4.6	
経常利益	17.5	△ 190.8	△ 208.3	
特別損失	3.3	9.0	5.7	固定資産除却に伴う特別損失を計上しておりますが、通常の変動範囲内のものであります。
税引前四半期純利益	14.2	△ 199.8	△ 214.0	
法人税、住民税及び事業税	3.1	3.0	△ 0.1	以上の結果、前年同期間比、減益となりました。
法人税等調整額	1.4	△ 66.8	△ 68.2	
四半期純利益	9.7	△ 135.9	△ 145.7	

## 第 2 四半期累計期間のセグメント別売上高推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第 2 位四捨五入

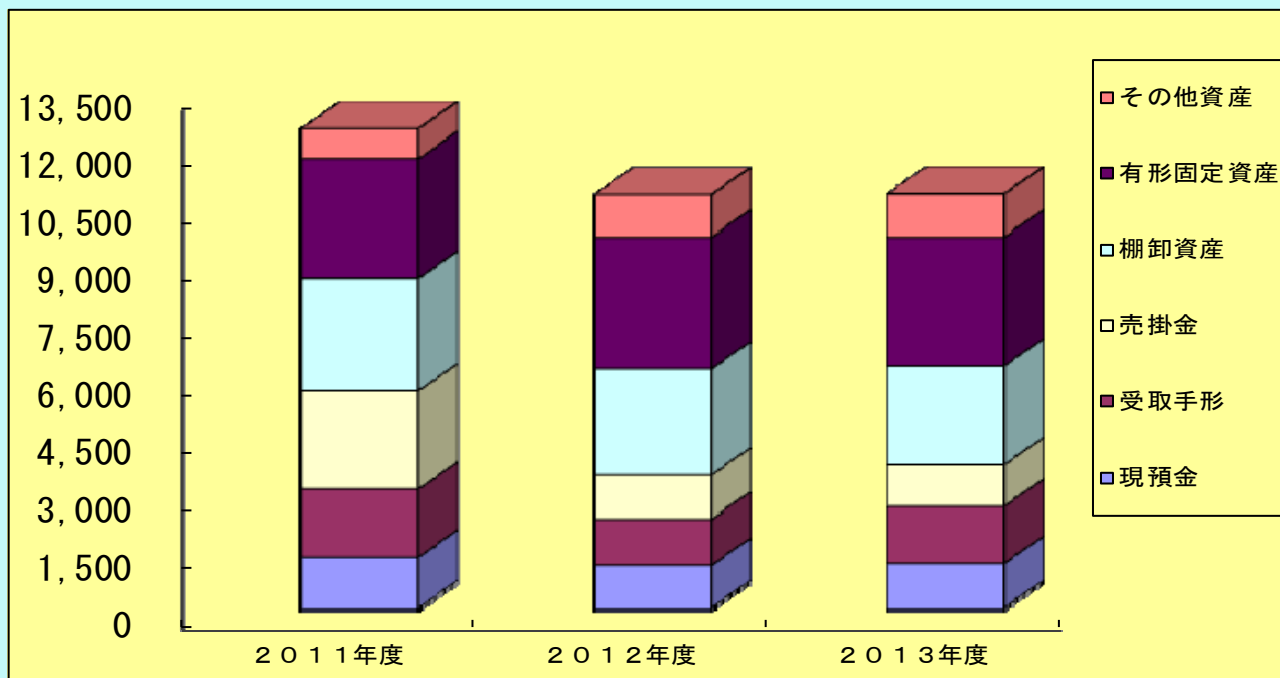
	2011年度	2012年度	2013年度
防毒マスク	3,425.0	1,421.4	1,161.9
防じんマスク	640.3	784.5	894.8
自給式呼吸器	852.6	719.1	634.3
その他の呼吸用保護具	845.9	450.7	541.0
その他	725.3	529.9	615.4
合計	6,489.1	3,905.6	3,847.5

### 当第 2 四半期累計期間の特徴

- ① 当第 2 四半期累計期間の売上高は、原子力発電所向け製品の受注伸び悩みに加え、民間製造業の受注のずれ込み等もあり、前年同期間比では 58 百万円の減少となりました。
- ② 防毒マスクは、原子力発電所向け受注が減少したことを主因に、前年同期間比で 2 億 59 百万円、率にして 18.3% の減少となりました。
- ③ 防じんマスクは、原子力発電所向け製品の受注増や使い捨て防じんマスクの拡販等により、前年同期間比で 1 億 10 百万円の増加となりました。一方、自給式呼吸器は船舶向け需要の不振もあり、85 百万円減少しました。また、その他の呼吸用保護具等の合計は、電動ファン付き呼吸用保護具や使い捨て化学防護服等の拡販により、2 億円近く増加しました。

## 第2四半期末の主要資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2011年度	2012年度	2013年度
現預金	1,330.8	1,113.7	1,163.0
受取手形	1,763.2	1,198.5	1,481.6
売掛金	2,554.3	1,154.6	1,088.4
棚卸資産	2,927.5	2,759.6	2,566.9
有形固定資産	3,110.5	3,413.3	3,339.3
その他資産	768.1	1,106.0	1,124.1
合計	12,454.5	10,745.8	10,763.4

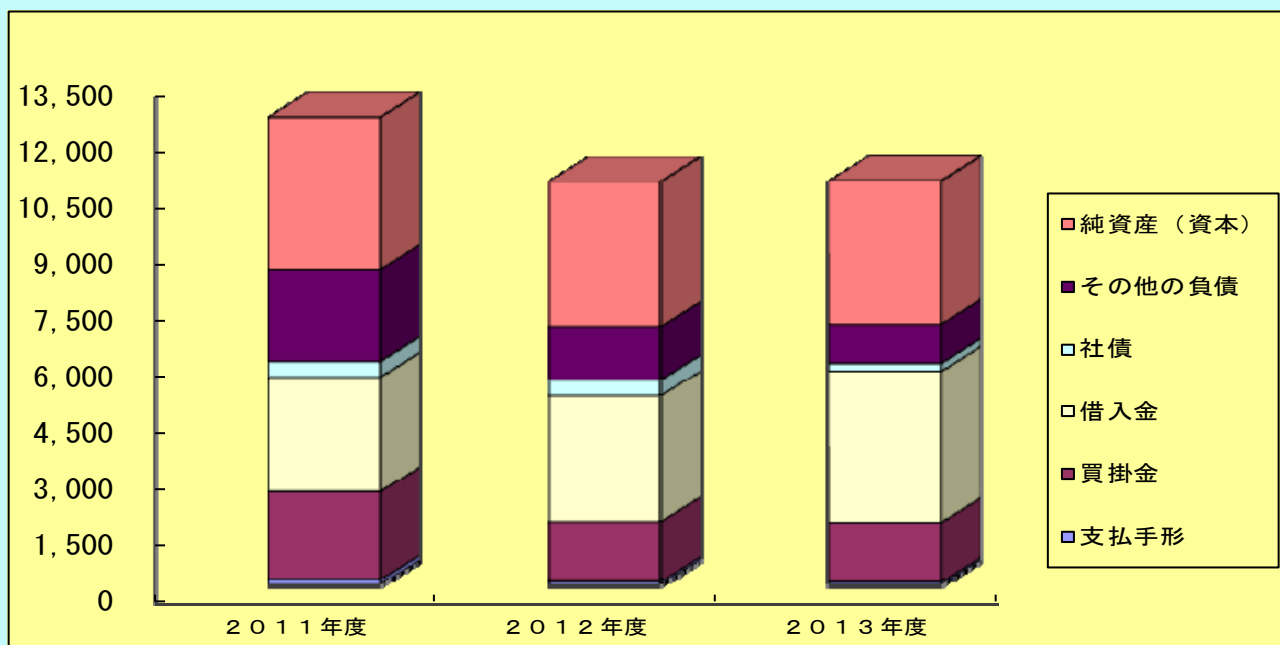
注：本表における受取手形には、債権売却手形（資金化分）は簿外のため含まれていません。

## 当第2四半期末の特徴

- ① 現預金の残高は、前第2四半期末比では49百万円増加していますが、これは通常の変動範囲内のものであります。
- ② 売上債権（受取手形＋売掛金）は、金利負担軽減のため、割引手形での資金調達を抑えたことから、前第2四半期末比で2億17百万円の増加となりました。
- ③ 棚卸資産は、前期末比で41百万円の増加ですが、前第2四半期末比では2億93百万円減少しています。これは、前年同期間で実施した電動ファン付き呼吸用保護具の国家検定化に伴う作り溜めを今年度は実施していないこと等によるものです。
- ④ 埼玉事業所新工場が前年度に竣工し稼働しておりますが、各種金型償却の終了等もあり、有形固定資産は前第2四半期末比では74百万円減少しております。
- ⑤ その他資産については、前第2四半期末比では、ほぼ横ばいとなっております。

## 第2四半期末の主要負債・純資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

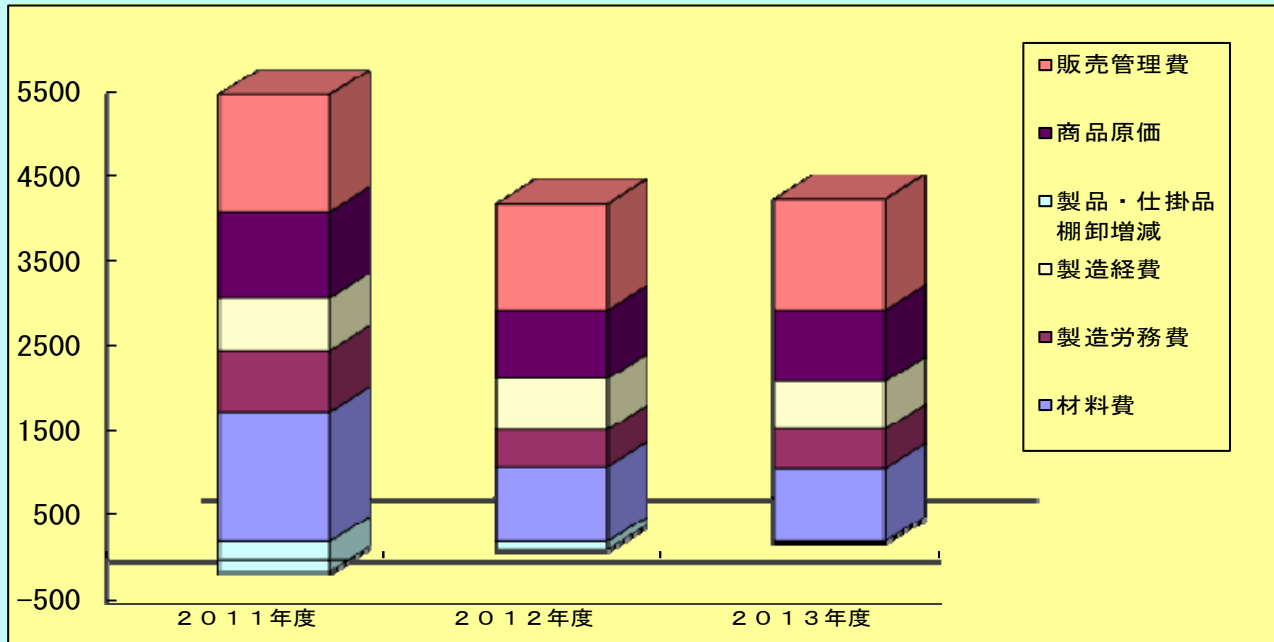
	2011年度	2012年度	2013年度
支払手形	138.5	83.5	70.1
買掛金	2,341.8	1,601.5	1,590.8
借入金	3,050.6	3,346.8	4,021.3
社債	415.2	423.9	212.6
その他の負債	2,455.4	1,426.5	1,049.2
純資産(資本)	4,053.0	3,863.6	3,819.3
合計	12,454.5	10,745.8	10,763.4

## 当第2四半期末の特徴

- ① 売上高の微減に伴い、支払債務（支払手形＋買掛金）もほぼ横ばいの水準となっております。
- ② 借入金及び社債の合計残高は、長期金利の低下を踏まえ、当事業年度後半に予定していた長期借入を前倒しで借り入れたことから、前第2四半期末比及び前期末比ともに増加しております。
- ③ 自己資本比率は、2011年度の最高収益時の32.5%に比し、その後の利益水準の低下にもかかわらず、当第2四半期末も35.5%と、高水準を維持しています。

## 第2四半期累計期間の売上原価・販売管理費状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2011年度	2012年度	2013年度
材料費	1,525.1	883.6	864.5
製造労務費	718.8	430.5	458.0
製造経費	622.7	603.7	561.8
製品仕掛品棚卸調整	△ 351.2	△ 97.5	△ 1.5
商品原価	1,017.9	805.3	839.0
販売管理費	1,379.5	1,252.6	1,307.2
合計	4,912.8	3,878.1	4,029.0

## 当第2四半期累計期間の特徴

① 材料費は、前年同期間比で19百万円減少しましたが、製品売上高も減少したため、売上高に占める比率は、前年同期間比でほぼ横ばいの31.4%となりました。

製造労務費は、年度後半以降に向けた製品供給体制の強化等により、前年同期間比で28百万円の増加となりました。

製造経費は、埼玉事業所新工場の建設関連費用等がなくなったこともあり、前年同期間比で42百万円の減少となりました。

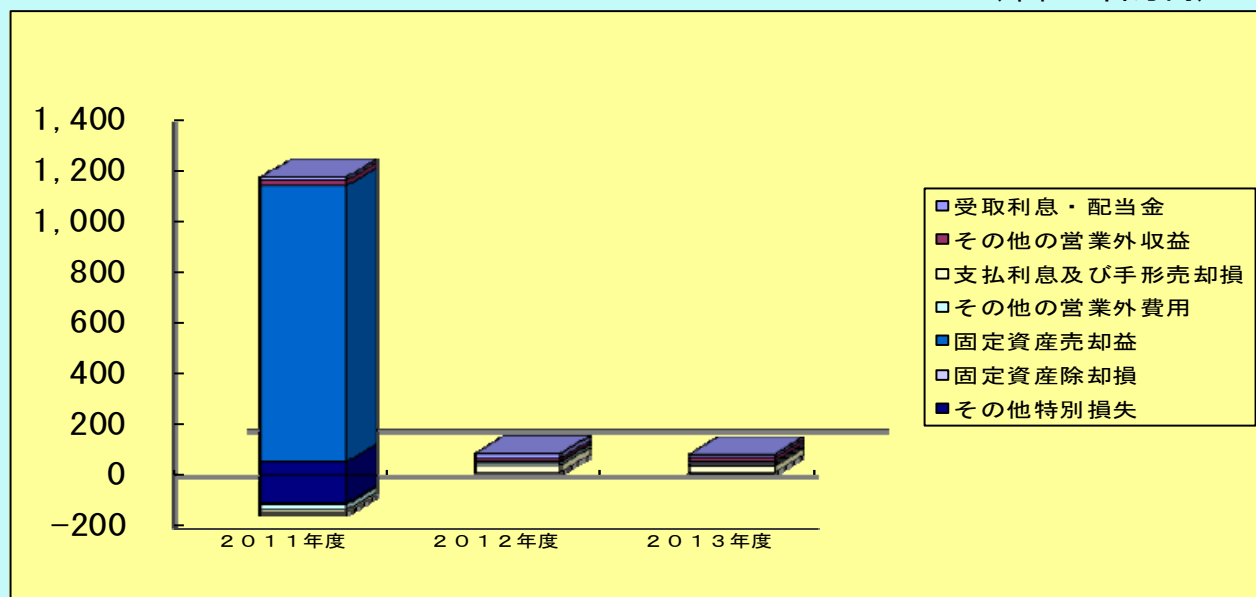
② 商品原価については、商品売上高の減少に加え、年度後半以降に向けた仕入増等もあり、商品売上高に対する原価率は76.6%と、前年同期間比で4.5%上昇しています。

③ 販売費及び一般管理費については、積極的な新製品開発・拡販活動の推進等もあり、前年同期間比では55百万円の増加となりました。



## 第2四半期累計期間の営業外・特別損益推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2011年度	2012年度	2013年度	
営業外損益	受取利息・配当金	11.5	18.3	11.1
	その他の営業外収益	20.6	12.0	15.4
	支払利息及び手形売却損	△ 39.9	△ 28.6	△ 26.5
	その他の営業外費用	△ 20.8	△ 11.8	△ 9.3
	営業外損益合計	△ 28.6	△ 10.0	△ 9.3
特別損益	固定資産売却益	1,089.5	0.0	0.0
	固定資産除却損等	△ 5.4	△ 3.3	△ 9.0
	その他特別損失	△ 161.6	0.0	0.0
	特別損益合計	922.5	△ 3.3	△ 9.0

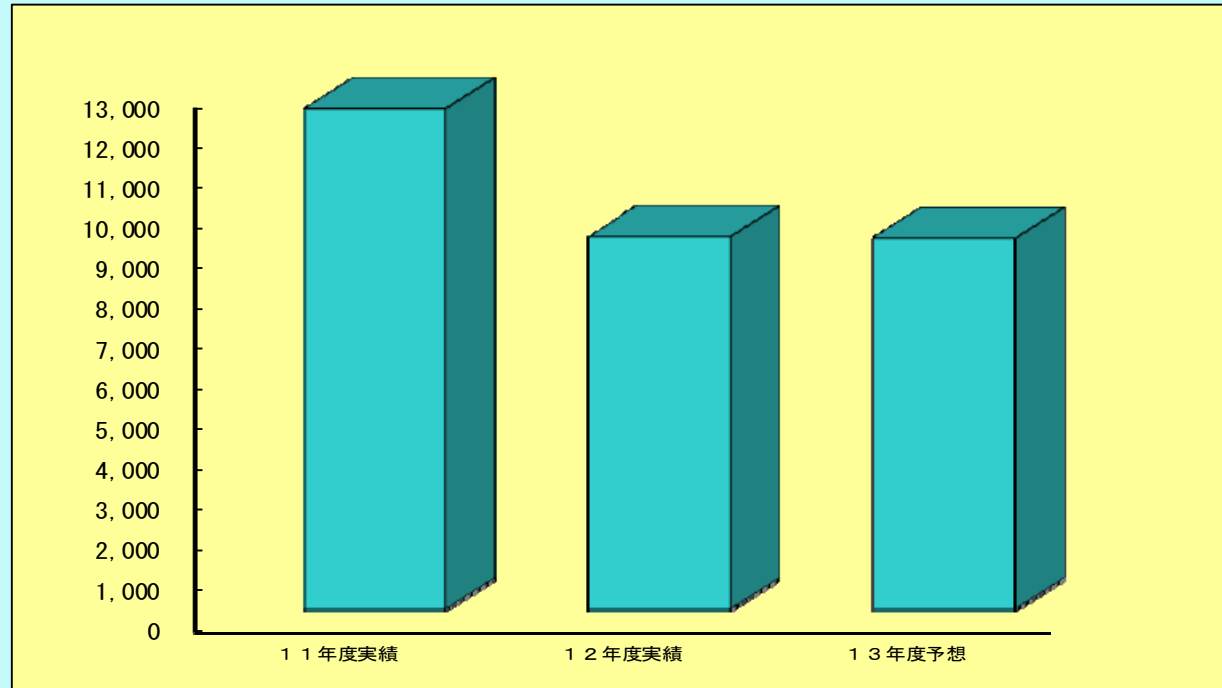
## 当第2四半期累計期間の特徴

- ① 営業外収益は、補助金収入は増加しましたが、保有株式の受取配当金やその他の営業外収益が減少したため、全体では前年同期間比で4百万円減少しました。
- ② 割引手形での資金調達を抑えたこと等もあり、支払利息及び手形売却損の合計は、前年同期間比で減少、また、その他の営業外費用も減少しました。
- ③ 特別利益に計上すべきものは、前年同期間と同様にありません。
- ④ 金型や機械装置等の固定資産除却損9百万円を特別損失として計上しております。

# 2013年度 通期業績予想

## 2013年度 通期の売上高予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点未満四捨五入

	11年度実績	12年度実績	13年度予想
通 期	12,419	9,241	9,200

## 状 況 と 見 通 し

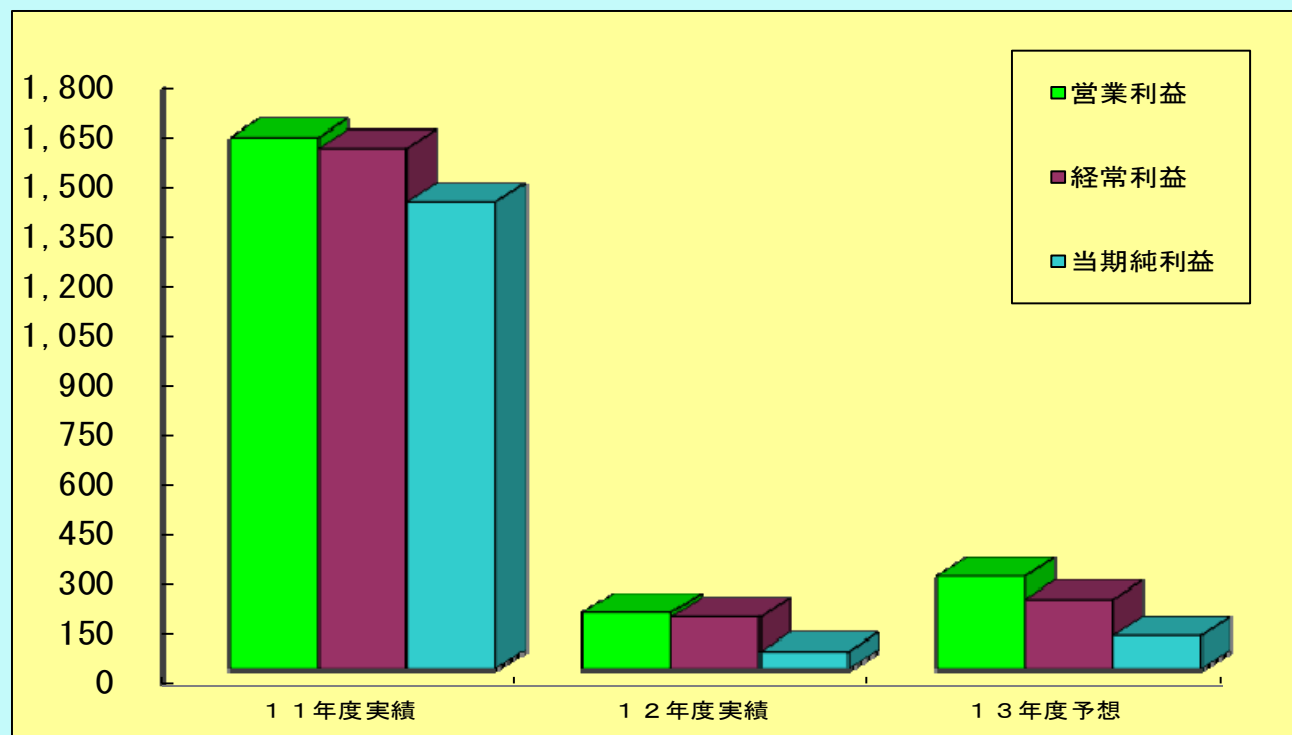
当第2四半期累計期間の売上高は、本年5月に公表した業績予想に比し、1億53百万円の未達となりましたが、通期の当初予想92億円の達成は、今後の動向如何と考えられます

通期の業績予想につきましては、当事業年度後半の事業環境や受注動向等を踏まえ、現時点では、本年5月に公表した92億円から大きく乖離はしないものと見込んでおります。

今後、上記の見通しに変化があると予想された場合は、遅滞なく業績予想の修正を行ってまいります。

## 2013年度 通期の利益予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	11年度実績	12年度実績	13年度予想
営業利益	1,603.1	172.9	280.0
経常利益	1,569.7	158.7	210.0
当期利益	1,408.4	53.6	100.0

## 状況と見通し

当社における年間売上高の構成を、前事業年度実績で見ますと、上半期 39.6 億円、下半期 53.4 億円となっていることからわかるとおり、恒常的に下半期、特に第4四半期に偏重しております。

当第2四半期累計期間における利益実績は、研究開発力の強化及び新製品拡販活動の推進等による費用先行もあり、本年5月公表の利益予想を下回りましたが、引き続き、第3四半期以降も製・商品ともに積極的な拡販活動に注力してまいります。

以上のことから、現時点では5月公表の当初予想は修正せず、通期では営業利益2億80百万円、経常利益2億10百万円、当期純利益1億円を見込んでおります。